



発行日：平成 29 年 1 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆ 第 33 回海部会 WG を開催しました！

12 月 20 日（火曜日）に第 33 回海部会WGが西尾市で開催されました。今回の WG では、矢作ダムの堆積砂を使った干潟造成試験や海ゴミの学習プログラムなどの話題提供がありました。



日時：平成 28 年 12 月 20 日（火） 15:00～17:00  
場所：西尾市役所会議棟  
参加者：17 名（事務局含む）

### ◆ 主な会議内容

#### 1. 西浦でのダム砂を使った試験区の経過



- 愛知県水産試験場の石田俊朗さんから蒲郡市の西浦地区で実施している矢作ダムの堆積砂を使った干潟造成の試験区に関する試験結果の中間報告がありました。
- 海底地盤の上にダム砂を異なる厚さで敷いた結果、厚く敷いた環境ほど地盤が安定しており、その効果としてアサリ稚貝の流出が抑制され着底量が多い傾向となりました。
- さらに、底質温度の変化の緩衝作用に効果があると考えられます。



#### 2. ゴミの学習プログラムについて



- 愛知県資源環境推進課の高橋敦士さんから小学生向けに作成したゴミの発生抑制を目的とした学習プログラム（資料）の紹介がありました。
- 小学校の授業でも活用されることをねらいとした「かっぱの清吉」と海ゴミのルートを探るビデオとゲーム感覚で学べるカードです。



#### 3. 給砂実験の報告



- 総合土砂管理問題に関する現況報告として、矢作ダムで土砂を流した際に下流環境に及ぼす影響を予測検討することを目的とした給砂実験の内容について紹介がありました。
- 実験は洪水時に実施するダム放流に併せて人為的に土砂を川に投入し、その流下状況を把握するものであり、今年度は1回実施しました。



## 4.意見交換



●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(・意見 > 回答)

### (1) 西浦でのダム砂を使った試験区の経過

- 今回の試験はダム砂の砂礫に注目して、砂礫による地盤の安定化を図り、砂の移動によるアサリの流出や斃死の軽減効果を把握することを目的として実施したものである。試験区では①対象区（現況地盤）、②ダム砂 14 cm厚、③ダム砂 28 cm厚、④ダム砂 41 cm厚を埋設した環境を形成し、各試験区内の物理環境や生物相の変化について定期的な調査を実施している。調査の結果、ダム砂の厚が多いほど温度や流速などの地盤環境が安定していること、またアサリの着底稚貝および稚貝が多く確認されている。また、大きな石を掘り起こした際はアサリの足系がついた状態のものが確認されており、個体の流出防止効果があることがわかった。一方、課題として、これまでも言われているように山から海まで運搬する仕組みの工夫が必要であること、また堆積砂には粒径の大きな石も混在していることからアサリ漁業に影響があるため、粒度調整が必要である。（事務局）
- 細かい砂が多く、変化も激しい環境であるため、ダム砂を入れて少し安定させたいという目的であるが、長期的には何らかの形で混じり合うことも想定されるが、前よりは安定した環境となるであろう。（青木）
- 今年、六条潟ではウミグモ（正式名称：カイヤドリウミグモ）の影響でアサリの稚貝がいない。稚貝を放流しても貝の中にウミグモが入って、内臓を食べてしまう。1度ウミグモが発生してしまうと、元の状態に治ったところはないと聞いている。（鈴木）
- 東幡豆までは寄生が確認されているが、それ以东は確認されていないので、西浦はまだ大丈夫だと思う。（石田）
- 粒度組成を見ると中央粒径が結構動いている。ダム砂の堆積厚によって、粒度組成に差が出るというのはどういふふうに考えられるか。（井上）
- 調査日によって細かい砂が移動してきて上に載っていたり、無くなったりしているので組成が変わってくることもある。また、堆積砂が厚いほど粒径の大きいものが動かないので地盤高が維持されやすいと思う。（石田）

### (2) ゴミの学習プログラムについて

- 愛知県のおごみの特徴は、閉鎖性区域であるため外国からの海ごみは少ないものの、流木、ペットボトルなどが非常に多い。景観面だけでなく、海岸の海浜植物の生育や産卵するアカウミガメの邪魔にもなり、生態系にも影響がある。愛知県では内陸部から発生するごみを減らすことに着目して、今回小学生向けの動画と神経衰弱風のカードゲームを用いた学習プログラムを作成した。（高橋）
- 自宅近くの川の観察を続けており、毎週大量の生活系のごみが流れていることがわかった。ごみの回収場所も影響しているように思える。大人のモラルの問題でもある。（野田）
- 川で拾う以外に、用水路の途中のごみ取り機があり、昔そこでごみ取りを毎日1日1回行って取ってきたことがある。それを見ていると、コンビニの袋をポイと捨てる人が必ずいて、毎日のように上がってきている。そういう人がいる限りは、ごみは減らないなという部分もある。（平岩）
- 仕組みとして、デポジットみたいにやらないといけないと思う（井上）

### (3) 給砂実験の報告

- 給砂実験では物理環境項目として、河床の地形、淵での堆積状況、河床材料（表層）の状況、植生域の堆積状況を調査し、生物環境項目では付着藻類、底生動物、魚類の調査を計画している。（事務局）
- 天竜川でも実施しているが、土砂が外洋に出ていくことから神経を使っている。（青木）
- 底のほうには当然、硫化水素を含んだものもある。結局、矢作ダムから土砂を流しても、中電のダムにもたまる。いずれにせよ、湖底には危ない土砂がいっぱいあるので生物に影響を与えうる可能性がある。（平岩）
- 悪いものが入っていないか検査をしている。そのまま流すことはせず、流す方法を検討している。（事務局）

## 今後の予定



第8回海の地域部会は、平成29年1月17日に開催されます。

### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、技官 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@iijnet.or.jp) までお送りください。

